

日本最高水準の対応能力

[データ復旧](#)研究センターでは、復旧作業時にドライブの製造環境と同一な環境を作るために多くの時間と投資を行っています。ハードディスクの物理的な障害や[RAIDデータ復旧](#)などの高難易度の作業にも復旧時間の短縮と復旧率の向上、安定したプロセスの維持ができるように最善を尽くしています。今回の復旧設備の拡充により一日で対応可能な復旧件数が5倍以上上昇、日本最高水準の復旧対応能力を備えることができました。

[DATA OKのクリーンシステム](#)

DATA OKが導入したクリーンシステムの特徴

DATA OKが導入したクリーンルームおよび関連システムは建物の内部構造と作業環境、セキュリティを考慮して、専門会社にオリジナル設計で注文し、特注で製作した設備です。全体的なシステムとの円滑な関係が出来るような構造に設計されています。

新しいクリーンルーム、およびシステムの導入によって従来よりも安定した防塵システムの維持はもちろん[データ復旧](#)作業速度も前より飛躍的に向上して、国内最高水準の復旧対応能力を備えることになりました。

クリーンシステムの中心エアシャワー

Clean Roomを汚染させる一番の原因は人間の出入りです。

外部との出入りはエアシャワーを通じて、ホコリの隔離、統制が成し遂げられます。

内部での空気もクリーンブース中にクリーンベンチを配置して、二段階で防塵制御を行っています。それによって作業前後の汚染率を下げ、全体的な空気清浄度を安定して維持することができるようになりました。

エアシャワー + クリーンブース + クリーンベンチ

外部との出入りはエアシャワーを通じて行い、ホコリを隔離し、最善の注意を払っております。

内部での空気もクリーンブース内にクリーンベンチを配置して、二段階でホコリを制御しています。それによって作業前後の汚染率を下げ、全体的な空気清浄度の水準を安定して維持することができるようになりました。

[DATA OKクリーンシステムの特徴](#)

安全・安心できる復旧サービス

情報セキュリティマネジメントシステム国際規格ISO/IEC 27001:2005に基づいた

DATA OKの情報セキュリティおよび管理システムが国際標準を遵守していることが認められ、情報セキュリティマネジメントシステム国際規格ISO/IEC 27001:2005を取得することになりました。

セキュリティーシステムはセキュリティー設備、セキュリティーソリューションも重要ですが、何よりプロセス全般にわたった統制が重要です。

徹底した統制のために作業プロセスを明確に規定し、段階別アクセス権限を調整することによって最高レベルのセキュリティーシステムを維持できます。[データ復旧](#)研究センターでは国際規格の情報保護および管理システムISO27001を適用して、世界トップクラスのセキュリティーシステムを運用しております。

[DATA OKのセキュリティーについて](#)

法人お客様の復旧室見学ができます

法人顧客、パートナー顧客の皆様にはご要望があれば復旧作業室の見学ができます。

ただし、見学にはセキュリティーシステムや復旧技術流出の恐れがございますので一定形式の申請書を作成してください。できる限り、記入していただいた内容に日程を合わせますので見学日など希望事項を申請書にご記入ください。

[->見学申込書作成](#)

* 依頼していただいた個人のお客様の場合、制限的に見学は可能ですが作業室の都合によりキャンセルになる場合もありますのでご了承をお願いします。

ハードディスク部品の確保

物理的な損傷でデータに接近が不可能になった場合正常に作動する部品を入れ替えデータへのアクセスを試みます。場合によっては部品交換が唯一の[データ復旧](#)手段になったりもします。

問題は同じメーカーの同じモデルでも容量や、発売日（バージョン）、工場からの出荷日などにより、ヘッド、PCB基板およびファームウェアの種類が異なり、その種類がまさに、数万種類に達するほど多様だということです。したがって、物理的な損傷のデータ復旧はハードディスクの部品をどれくらい多様に確保しているのかによって、成功と失敗が分かれる場合があります。

DATA OKは日本国内および海外への部品購入先を確保、稀少モデル、古いモデルに対しても安定した部品需給を維持しています。

[ハードディスクについてWiki](#)

DATA OKの情報セキュリティマネジメントシステム国際規格ISO27001取得

DATA OKの情報セキュリティおよび管理システムが国際標準を遵守していることが認められ、情報セキュリティマネジメントシステム国際規格ISO/IEC 27001:2005を取得することになりました。ISOから提示された情報等級分類、情報取り扱いに関する人事管理、セキュリティー区域指定、人的接近管理などの情報セキュリティに関する133の統制項目をクリアし、顧客の個人情報およびデータの保護、管理およびセキュリティーにおいてISOが提示した情報セキュリティマネジメントシステム国際規格を守っていることが認められることになりました。

[ISO27001情報保護国際標準認証取得について](#)